

Step.4

校内での発表会

各グループでまとめた提言を発表。
発表を聞いた生徒からはさまざまな意見が飛び交いました。



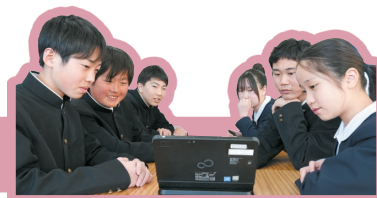
Step.3



提言資料の作成

調べた内容を町長への提言として
まとめます。3年生が中心になって
プレゼンテーション資料を作成しま
した。

学習の流れ



Step.1



ゼミ開設に向けたガイダンス

さまざまな町の課題を発見。課題ごとに開設された
ゼミに所属し縦割りグループを決定。

Step.2

縦割りグループでの探究活動

外部講師等の講話、専門家や企業への訪問を実施。
グループごとに取材や調査も行いました。



私が創りたい 寄居のまち 特集

寄居ふるさと 探究学



次世代を担う人材育成

町では、町民の高齢化や若い世代の町外流出といった課題が深刻化していま
す。町の調査では、老年人口（65歳以上）が年少人口（0～14歳）を上回り、
今後その差が拡大していくことや、生産年齢人口（15～64歳）が急速に減少
していくことなどが見込まれ、担い手不足が町の将来に大きな影響を与えるこ
とが懸念されています。この現象は地方全体でも顕著であり、過疎化の進行に
よる空き家の増加やコミュニティの衰退といった問題も浮き彫りになっていま
す。地域の活力を保ち、未来につながる持続可能なふるさとを実現するために
は、次世代を担う人材の育成が急務となります。
こうした背景を踏まえ、全中学校で「寄居ふるさと探究学」を実施していま
す。この特集では、生徒たちが町の課題と向き合い、未来の寄居町を描く探究
学習の概要をご紹介します。

「考える」ことの大切さ

寄居町教育委員会教育長

関根 光男



寄居ふるさと探究学は、主体
的・対話的で深い学びの具現化
や郷土愛の醸成を狙いとして、
令和4年度に男衾中学校で先行
実施し、令和5年度からすべて

の中学校で実施しています。

総合的な学習の時間に、学
年・学級の枠を取り払った縦割
りグループを編成し、ゼミ形
式で展開するPBL（Project
Based Learning）、いわゆる
「問題解決型学習」を展開して
います。生徒たちは自分の興味
や関心をもとにゼミを選択し、
探究学習に取り組めます。この
探究学習をより深めるため、町
長への提言を設定しています。

寄居ふるさと探究学で大切な
ことは「考える」ということ
です。現状から問題を見だし課
題を明らかにし、その解決に向
けて調べる中で、まずは自分で
考える、そしてその考えを友達
に伝える、同時に友達の考えを
しっかり聞く。対話の中でさら
に考え、みんなで最適な解答を
見だしていく。この学習の流
れの中で、これからの時代を生
き抜いていく力が徐々に育まれ
ていきます。これをもとに一人
一人が将来、自己実現を図って
いくことを期待します。

なお「寄居ふるさと探究学」
は、地域の皆さんや事業者の皆
さんのご協力が必要不可欠で
す。今後も引き続き、ご理解、
ご協力をお願い申し上げます。